

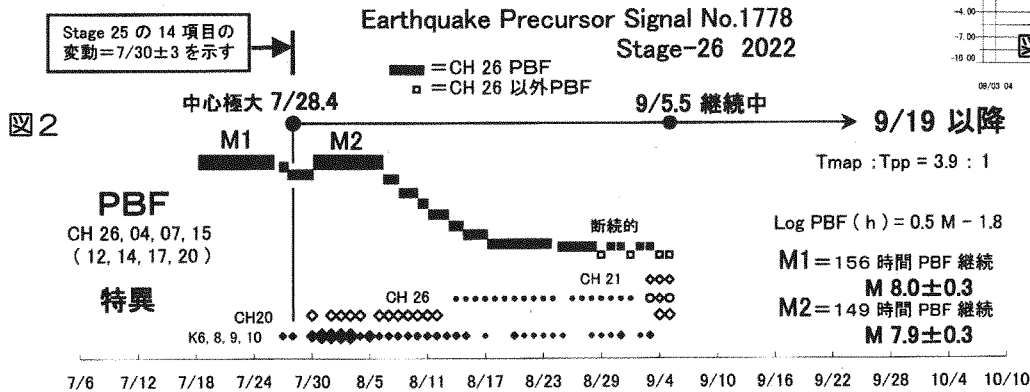
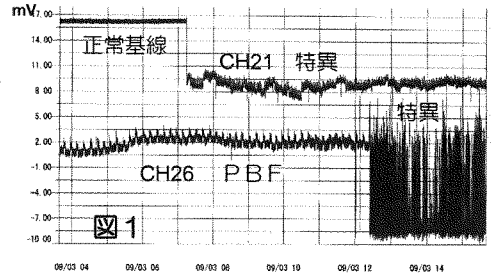
PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No.1778長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

続報 No.337

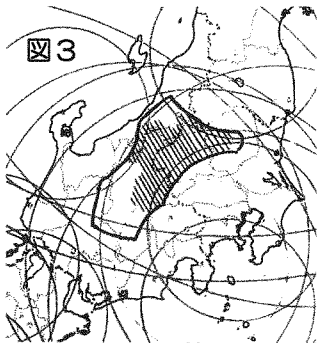
2022.09/05 (月曜) 12:30 発表

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

No.1778 続報 9/3~八ヶ岳複数観測装置に特異変動出現 前兆変動継続→少なくとも地震発生時期9月19日以降 前兆変動終息確認後発生時期を推定予定



No.1778長期継続前兆のStage-26は、前続報で報告のとおり、図2のM1とM2によるツインピークス型極大認識で、現在は前兆変動終息を待っている状態です。09月03日から八ヶ岳のCH 21,26に特異変動が出現しました。CH20は09月04日から特異変動出現。図1はCH21と26の特異変動出現開始時の実際の波形です。特異出現には時間差あり。図2を見ますと、CH20の初期の糸状特異が終息し、補完するようにCH26基線に弱い特異変動が出現しました。高知の複数観測装置の特異は静穏になっていますが、09月03日から八ヶ岳の複数観測装置に特異変動が出現し、Stage-26の中でも段階的変化が認められます。このような変化は過去例がありません。前兆変動が14年継続する中でも、いくつかの変動が次Stageの極大を示す変化はありましたが、Stage-25では14もの項目がStage-26の極大を示すという変化も初めてです。さらにStage-26では過去に経験のないPBFの長期継続が観測されており、これも初めて体験するものです。以上のことから現在が終盤に近い可能性も考えられますが根拠は薄弱です。図2のPBF極大07月28.4日に対して、いつ前兆変動が終息するか現状予測は困難です。右上に終息に対する発生時期を試算して表しました(BTから推定される時刻を参考に1日に2回の時間帯で試算)。これより先となる可能性もあります。新たに出現した特異の今後の変化並びに前兆変動終息を注視して観測を続けています。本日現在変動継続のため、少なくとも9/18以前に対応地震発生の可能性は否定できません。終息が確認されましたら続報させていただきます。



No.1778 対応地震 推定内容

◆推定領域：図3太線内領域(火山近傍領域)
斜線域=可能性考え易い参考推定領域

◆推定規模：M8.0±0.3

◆推定時期：9月19日以降の可能性
前兆変動終息後発生時期推定予定 終息待ち

◇推定地震種：震源浅い陸域地殻地震

◇推定発生時刻：AM 9:00±2 又は PM 5:00±3

No.1778 推定内容の根拠(経験則等)

20観測装置を超えるBF,PBF,特異等の前兆変動出現影響局位置から経験則によるドーナツ円を描き求めた。火山近傍地震前兆変動も多数観測されたため火山近傍域考え易い(特に八ヶ岳北側)

11回出現した主なPBF変動の出現継続時間から経験式で推定M7.8~M8.0を示す。最大推定値M8.0±0.3を使用

6/20・7/12に火山噴火型近似変動を観測。噴火が無いとは断定困難(過去例なく推定困難)但し変動から噴火迄の過去最長は34日のため過去例からは噴火は少々考え難い。推定領域の主な火山は日光白根山・草津白根山・浅間山・新潟焼山等

14年2ヶ月継続前兆変動のStage-26の変化より 図1参照

前兆期間が14年と長いことから地殻地震推定。前兆変動出現数が最大30観測装置と最多から陸域地震推定。これ以外は考え難い

一日に2回現れる複数BT変動の日々出現開始時刻・終息時刻より